



今月の写真：「七行器(ななほかい)行列」(南会津町)

京都の祇園祭と並び日本三大祇園祭のひとつに数えられているのが「会津田島祇園祭」です。毎年7月22日～24日に行われ、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

7月23日早朝に行われる古式ゆかしき七行器行列がクライマックスで別名花嫁行列とも呼ばれています。

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・第56回南会津地方植樹祭が開催される！
 - ・田島二小「田んぼの学校」草取り編！
 - ・ファミリー緑の教室が開催されました！
 - ・新たな取組みとして、田島高校生がイチゴ栽培に挑戦！！
- この人を知りたい
 - 目黒 英宏さん(南会津町南郷地域)
- 農林事務所からお知らせ
 - 「うつくしま農林水産ファンクラブ」会員募集！！
- 今月のコラム

平成19年7月10日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

第56回南会津地方植樹祭が開催される!!

去る5月29日、南会津町森戸字滝ノ又山地内において、南会津町、南会津町緑化推進委員会、南会津地方緑化推進委員会の主催による「第56回南会津地方植樹祭」が開催されました。

当日は、抜けるような五月晴れとなり、植樹には絶好の天気恵まれ、緑の少年団を含む一般参加者と来賓を合わせて約170名と多くの方々が参加されました。



一生懸命植えました

式典では、南会津地方緑化推進委員会委員長である下郷町長の開会あいさつの後、地元南会津町長が参加者へ歓迎のあいさつを述べられ、地域の緑化活動に功績のあった3名の方々と明和緑の少年団が緑化功労者として表彰されました。続いて、毎年、南会津産木製玩具類の売上金の一部を南会津地方緑化推進委員会へ寄付している(株)高島屋に対して感謝状の贈呈が行われました。

式典の後、参加者全員で植樹を行いました。今回は、以前茅刈場として利用されていた区域に、オオヤ

マザクラ、ブナなど5種類、計190本の広葉樹の苗木を植えました。五月晴れと高原のさわやかな風の中、参加者は互いに協力し合いながら作業を進め、時間内に全ての苗木を植えることができました。

この植樹祭には「緑の募金」による緑化事業のほか、県の「緑化活動県民参加推進事業」として、県民一人ひとりが森林づくりに参画することを目的としているものです。参加者一人ひとりの手によって植えられた苗木は、やがては大きく育って花を咲かせ、地域の美しい緑を創出してくれることでしょう。

なお、来年度は檜枝岐村において開催される予定です。

(森林林業部)

田島二小「田んぼの学校」草取り編!

去る6月15日に田島二小学習田において、5年生22名による田の草取り作業が行われました。田植えを終えてから約3週間が経過し、雑草の草丈が稲よりも伸びている箇所があちこちに見受けられていました。



作業は手取りと田車(ころばし)を用いて行われましたが、子供たちは初めての田車の扱いに悪戦苦闘しながらも約1時間(2ページに続く)



(1ページから続く)
 の作業を終え、
 きれいな田面に
 仕上げることが
 できました。
 最後に児童に
 よる感想が述べ
 られたあと、農

林事務所農業普及部の職員から「なぜ草取りをするのか」「草取りの今と昔」の説明を受け、草取りは農作業で1番重要で大変な作業であることを学んだようでした。

今後も月1回くらいのペースで草取り作業を行うほか、分けつ調査を実施する予定です。

(農村整備部)

ファミリー緑の教室が開催されました！

去る6月16日に「第21回ファミリー緑の教室」が、只見町の青少年旅行村いこいの森において、南会津地方緑化推進委員会の主催、只見町緑化推進委員会の後援により開催されました。

当日は、前日まで降っていた激しい雨が嘘のように晴れ渡り、すがすがしい青空の下、南会津郡から14組37名の親子が参加し、緑の教室を楽しみました。

午前中の自然観察会では、参加者は4班に分かれて旅行村内の森林を散策し、植物、昆虫、野鳥など様々なものについて観察を行い、もりの案内人や森林インストラクターから説明を受け、森林の持つ役割の多様性について学びました。また、観察会の後は、炭出しや炭窯の余熱を利用したピザ焼き、竹を利用したバームクーヘン作りなどを行い、普段とは違う屋外料理を体験しました。

午後は、小枝を利用した木工クラフト教室が行わ

れ、もりの案内人の指導のもと、動物の顔や昆虫を作成しました。なかには、自らデザインしたカタツムリを作る子供や子供以上に夢中になる大人もいて、普段家では出来ない

木工クラフトを十分に楽しんでいる様子でした。

参加された全ての皆さんが、自然とふれあい、緑に親しんで、その大切さについて学びながら、有意義な時間を過ごされたと思います。

なお、来年度は南会津町での開催を予定しています。

(森林林業部)



自然観察会の様子

新たな取組みとして、 田島高校生がイチゴ栽培に挑戦!!

田島高等学校、南会津地方振興局、南会津教育事務所、南会津農林事務所の連携により、田島高等学校の鉄骨ハウスを利活用してイチゴ栽培が行われています。

この事業は、今年度、県出先機関連携事業として南会津地方の冬期間の農業所得確保に向けた「南会津地方“ゆきぐに農業”調査検討事業」の一環として実施しています。全国でも珍しい夏季のイチゴ生産から需要が高まるクリスマス時期の生産、そして生産可能な初冬時期まで生産を継続することによって、新たな農業活動の可能性を模索するとともに、高校生へ農業活動への理解促進を目的に取組んでいます。

5月7日のハウス準備、5月11日の定植作業を皮切りに、現在まで追肥作業や防除作業などの管理作業を田島高2年生の環境科学コース15名が、体験学習しています。

初めのうちは、慣れない手つきで作業を行っていた生徒たちでしたが、最近作業スピードが速くなってきました。合計400株のイチゴをそれぞれの生徒たちが分担して作業を行っています。今は収穫まで



収穫は8月下旬ごろからです

にイチゴの生育を充実させることを目指して、生徒たちは随時管理作業を行っている状況です。

生産された果実は、ジャムなどに加工利用を行うことによって、「生産」と「加工」の工程を総合的に体験学習する予定です。

当事業に興味のある方は、南会津農林事務所までお問い合わせ下さい。

(地域農林企画室、農業普及部)

地域農業発展への熱き思い

(南会津町南郷地域 目黒英宏さん)

平成18年12月に南郷土地改良区理事長に就任された農政のスペシャリスト目黒英宏さんを紹介します。

目黒さんは、昭和32年富田農協奉職以来、南郷農協・南会西部農協・会津みなみ農協と42年間農政に携わって来られました。3回の農協合併を肌で経験されたかたわら、第三次福島県農業振興基本方針、福島県農業・農村活性化懇話会委員も務められ、当時の地域農業構想が身を結んできたことを力強く語ってくれました。特にトマト(桃太郎)栽培の技術の向上とハウス栽培の成果があらわれ、収量、販売高が伸びていること。花き類(りんどう・カスミソウ)も含め、産地育成が定着したこと等が挙げられます。

農業経営体質の強化を図るには生産基盤の確立が重要であることを確信し、現在経営体育成基盤整備事業木伏地区の整備が順調に進められています。

また、県営ほ場整備事業和泉田地区実施の際は補助監督員・換地副委員長を務められ地元調整に奔走されました。

現在、和泉田営農改善組合が設立され、組織の活動により、担い手への集積・ライスセンターを核とした大型農業導入により水稻の育苗・田植え作業の労力低減の実現と水稻直播による低コストと省力化が図られ、農業経営の安定化に著しく寄与



目黒英宏さん・隆子さん夫妻

し近隣他地区のモデルとなっております。

現在、3人の子供たちは東京・札幌で活躍され、愛妻隆子さんと二人暮らしですが、農協奉職時代は1ヘクタールの水田を隆子さんが守り苦勞をかけたそうです。最近はおさんサービスと大好きな魚釣りの時間もとれ、鮎の試し釣りで17センチの大物を釣り上げスポニチ全国版で紹介されたほどの腕前です。朝捕りのハヤの唐揚げは格別美味しかったです。ごちそうさまでした。

目黒さんからは、後生に優良農地を引き継ぐこと、トマトに続く作物の導入を模索し地域農業の振興・管内農業の抱えている課題について効果的な対応策を図っていかなければならないという、地域農業発展への熱意を強く強く感じました。まだまだ若いエネルギーな理事長さんです。

(農村整備部)

農林事務所からお知らせ

「うつくしま農林水産ファンクラブ」会員募集!!

福島県では、「新鮮・おいしい・安心」な県産農林産物をはじめ、古くから地域に伝わる伝統料理や次世代に伝えたい食文化を見つめ直すことにより、県産農林産物等のすばらしさを実感し、その良さを広くPRしていただくため「うつくしま農林水産ファンクラブ」を運営しています。

今後とも、県民の皆様の参加・協力を得て、地産地消をより一層全県的に推進するため、新たに会員を募集します。

募集会員

- (1) 消費者ファンクラブ会員
- (2) 生産者・販売者(店)ファンクラブ会員
(食品加工業者も含む)
- (3) 飲食店(宿泊施設も含む)ファンクラブ会員

うつくしま農林水産ファンクラブ会員へは、「会員証」の発行や、「うつくしま農林水産ファンクラブ通信」等の情報提供など、会員特典があります。

お申し込み及びお問い合わせ先は、南会津農林事務所 地域農林企画室まで。

旬 の 味



10代の頃、祖父の後を追いつながら裏山の竹林でよくタケノコ掘りを手伝った。当時は中国産のタケノコが幅を効かせておらず、私の地元の福島市南部では「タケノコ屋さん」と呼ばれる業者が農家を巡回し集荷していた。農林業を営む我が家にとっては、春先の現金収入としてもタケノコは貴重だった。

細長いタケノコ用の鍬で、土からわずかに先を出したタケノコを掘り出す作業は、案外難しかった。タケノコが地下茎に繋がる方向を見極め鍬を振り下ろさないと、疲れるばかりでタケノコはうまく掘り出せない。手元が狂い度々タケノコを破壊していた私は、正確に鍬を振り下ろす祖父を尊敬していた。

「タケノコ屋さん」はもう商売をやめたが、タケ

ノコ掘りは今も行われ、青葉のころ、親戚や知り合いに配ることが恒例となっている。タケノコはアク抜きが面倒な食材とされているのかもしれないが、掘りたてのタケノコは茹でるだけでよく、ニシンやしいたけ、ジャガイモなどと煮付けて食卓に上る。ニシンが豚肉に代わったりもするが大切な旬の味だ。

最近では、竹林が拡大し関係者が始末に困っている話を聞く。物干し竿や資材としてのタケノコの利用が減り放置される竹林が増加したり、水煮のタケノコで旬の味が忘れられたためか。

90歳を過ぎても元気にタケノコ掘りをしていた祖父も先日96歳の天寿を全うした。来年からは、祖父の姿を偲びながらの旬の味となる。

(農業振興部副部長 加藤政樹)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想を
お寄せください。

2100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

**PRINTED WITH
SOY INK™**

この広報誌は古紙配合率100%再生紙と
SOY(大豆油)インキを使用しています。